

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第 卷一第

## 論說

●染料藥品生產獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(一)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(三)

## 雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領やつぶ島研究  
地研究ノ一

●享保年間ノ米價調節(二)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

## 雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農産擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動  
●すまゝと教授遊ク

法學博士 戸田 海市

商學士 左右田喜一郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教授 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

講師 高田 保馬

法學博士 河上 肇

# 收益遞減ノ法則ノ擴張

(收益遞減法則論ノ一)

法學博士 河上肇

## 一 緒言

一、緒言——二、此法則ハ農業以外ノ産業ニ關シテモ行ハル——三、此法則ハ土地以外ノ勞働及資本ニ關シテモ行ハル——四、此法則ト效用遞減ノ法則及享樂遞減ノ法則トノ關係

收益遞減ノ法則(註)ハ分配論少クトモ地代論ノ一大前提デアアル。余ハ戶田博士ノ地代論ノ出デタ

雜誌 收益遞減ノ法則ノ擴張

第一卷(第三號一二七) 四三九

ルヲ機會トシテ少ク地代ノ研究ニ從事シタイト思フ者デアルガ、今ハ姑ク根本ニ遡ツテ先ヅ此法則ノ研究ヨリ始メル。然ルニ此法則ニ關シテモ論ズベキ點ハ頗ル多イガ、紙面ニ限リアツテ一時ニ述ベ盡スコトハ出來ス。仍テ本篇ニ於テハ纔ニ其問題ノ一端ヲ述ブルニ止メ、餘ハ凡テ他日ヲ期スル積デア

(註) The law of diminishing return ニ相當スル我國ノ術語ハマダ一定シテ居ナイ。例ヘバ田島博士(經濟原論上卷二三二頁以下)戸田博士本論叢第一卷第一號三六頁其他福田博士(經濟學講義五四三頁以下)ノ如キハ之ヲ收穫遞減(又ハ漸減)ノ法則ト名ケラレ金井博士(社會經濟學第六版、五二八頁)ハ生産遞減又ハ收益遞減ノ法則ト名ケラレ山崎博士(明治大學發行經濟學講義二九頁以下)津村博士(國民經濟學原論上卷三一〇頁以下)ハ報酬漸減ノ法則ト名ケラレ居ル。此中收穫遞減ノ法則ナル用語ハ余ノ立場カラ云ヘバ是非避ケタイト思フ。何故ト云フニ、收穫ト云フ時ハ土地ノ生産物殊ニ農産物チノ指メガ如ク聞ユルケレドモ、此法則ハ、身見ニ依レバ後ニ論述スル如ク決シテ土地又ハ農業ニノ關係スルモノデ無イカラデア。次ニ報酬ト云フ時ハ土地又ハ農業チノ聯想スル弊ハ無イケレドモ、併シ或人ノ勤勞又ハ勞働ニ對シ他人ノ提供スル報酬チノ指メス如ク聞ユルケレドモ、據ガアルカラ報酬遞減ノ法則ナル用語モ余ハ採ラナイ。金澤文學博士(辭林)チ見ルニ「しうくわく(收穫)田知の作物のとりいれ。とりいれ。しうなふ」トアリ。又「はうしう(報酬)むくし。へんれし。自己のために他人がなしたる或勤勞に對して利益を與ふること。料金。代金」トアリ。世間普通ニ「收穫」及「報酬」ナル文字チ如何ニ解スルカハ之ニ依テ其ノ一班ガ分ルト思フ。

收益遞減ノ法則ニハ從來動的ノ見方ト靜的ノ見方ト二ツアルガ、其ヲ區別スルコトガ先ヅ肝要デア。仍テ一應ウヘサトみるノ説明ヲ左ニ掲ゲル。

うへすとノ書ハ題シテ An Essay on the Application of Capital to Land, with observations showing

the impolicy of any great restriction of the importation of corn, and that the Bounty of 1688 did not lower the price of it (1815) ト云フ。此書ハ『收益遞減ノ法則ヲ學理トシテ建設シタル最初ノ書ト目ス可キモノ』(1)デアルト云フ歴史的ノ關係ガアルカラ、多クノ學者ノ中ヨリ姑ク彼ヲ選ンデ其所説ヲ茲ニ引用スル。彼ハ前掲書ノ冒頭ニ次ノ如ク述ベテ居ル。

The chief object of this essay is the publication of a principle in political economy which occurred to me some years ago, and which appears to me to solve many difficulties in the science which I am at a loss otherwise to explain. . . . The principle is simply this, that in the progress of the improvement of cultivation, the raising of rude produce becomes progressively more expensive, or, in other words, the ratio of the net produce of land to its gross produce is continually diminishing. (2)

(此論文ノ主ナル目的ハ數年前余ノ思付キタル經濟學上ノ一原則ヲ公ニスルニ在ル。……ハ此處一節省略)……其原則トハ只コウ云フコトデアアル辨作改良ノ進行中、農産物ノ産出ハ次第ニ多クノ費用ヲ要スルコトニ爲ルト云フコト檢言スレンシ、土地ノ純生産物ノ總生産物ニ對スル比例ハ引續キ減少シツツアルト云フコト是デアアル。

次に、右論文ノ公ニサント後三十餘年目ニ出タシヤーン・すちゅあーヌ・みるハ Principle of Political Economy, with some of their Applications to Social Philosophy. (1848) ヲ見ルト、其ニハ次ノ如ク述ベテアル。

……In any given state of agricultural skill and knowledge, by increasing the labour, the produce is not increased in an equal degree; doubling the labour does not double the produce; or, to express the same thing in other words, every increase of produce is obtained by a more than proportional increase in the application of labour to the land. (3)

1. 福田博士、經濟學講義、五七二頁。  
2. Pp. 1, 2. (A Reprint of Economic Tracts ニ據ル。)  
3. Popular ed., Longmans, Green & Co., 1902, p. 109.

(…農業上ノ熟練及智識ノ一定ノ状態ニ於テハ勞働ヲ増加スルモ生産物ハ同ジ程度ニ増加セザルモノデ例ヘバ勞働ヲ倍加スルモ生産物ハ倍加シナイ。同ジ事ヲ他語ニテ言表サバ生産物ノ各々ノ増加ハ土地ニ對シ比較的ニヨリ多クノ勞働ヲ使用スルコトニ依リテ得ラルル)

みるガ其著書ノ他ノ部分ニ於テ爲セル議論ノ如何ハ今舍イテ問ハズ、少クトモ茲ニ掲ゲタル説明ニ從ヘバ、『農業上ノ熟練及智識ノ一定ノ状態ニ於テハ』云々ト云フノデアルカラ、其法則ノ應用ハ靜的狀態ニ限ラレテ居ル。然ルニ前掲ラズトノ説明ニ依レバ、『耕作改良ノ進行中』云々ト云フノデアルカラ、註 此場合ハ法則ノ適用ガ動的状態ニ關シテ居ル。此ノ如キ靜的及動的ノ二ツノ見方ハ昔カラ行ハレテ居ルガ、之ハ明カニ區別シテ考ヘナケレバ爲ラス。一ハ熟練及智識ノ發達ニ於ケル一定ノ時期ニ於テノ可成的ノ事實ヲ言表シ、一ハ産業的發達ノ長キ期間ヲ通ジテノ歴史的ノ事實ヲ言表スモノデアル。

(註) うえずとノ書中、農業ニ於ケル收穫ノ増減ヲ論ゼル個所ニハ、耕作改良ノ進行ニ於テト云フヤウナ文句ガ注意深ク到ル所ニ附加シテアル。例ヘバ in the progress of cultivation ト云フ文字ハ二頁ニアリ、in the progress of improvement etc. ト云フ文字ハ三頁七頁九—一〇頁一一—一二頁一四頁等ニ使ツテアル。

今動的状态ニ關スル場合ノコトハ全ク之ヲ後日ニ譲リ、茲ニハ專ラ靜的状态ニ關スル場合ノコトノミヲ論ズル積リデアル。扱テ勞働及資本ノ使用ヲ一定面積ノ土地ノ上ニ限ランカ、技術ノ状態ニシテ一定セル限り、其勞働及資本ノ分量ノ増加ハ或點ヲ超ユル時ハ次第ニ之ニ對スル收益増加ノ割合ヲ減少スルニ至ルモノナル事ハ、殆ド凡テノ學者ノ認ムル所デアツテ、コハ今更多言スルヲ要セザルコトデアル。乍併モ進デ此法則ノ適用ヲバ多少ニテモ擴張セントスル時ハ、吾々

ハ一步毎ニ學者ノ反對論ニ逢著スルヲ免レス。而シテ本篇ノ目的ハ、其等主ナル場合ヲ列舉シ、之ニ關スル卑見ノ大要ヲ述ベントスルニ在ル。

## 二、此法則ハ農業以外ノ産業ニ關シテモ行ハル

第一ニ、如上ノ法則ハ古來多クノ學者ニ依テ農業(又ハ其他ノ原始産業)ニノミ限ルモノト看做サレテ居ル。現時我國ノ學者モ、田島博士(1)ヲ除キテハ、多ク爾カ看做シテ居ルヤウデアアル。乍併、卑見ニ依レバ、一定面積ノ土地ノ上ニ有利ニ使用サルベキ勞働及資本ニ大凡ソ一定ノ限度アリト云フ事ハ、決シテ農業ニノミ限ル譯デハ無イ。即チ收益遞減ノ法則ナルモノハ、畜ニ農業ノミナラズ、廣ク他ノ商工業ニモ適用サルベキ性質ノモノデアアル。固ヨリ收益遞減ノ法則ノ行ハルルニ至ル點ハ、農業ト商工業トデハ非常ナル差異ガアル。否ナ同ジ農業デモ又同ジ商工業デモ、有利ニ使用シ得ベキ勞働及資本ノ分量ニハ、各々著キ差異ガ在リ得ル。例ヘバこんもんす(2)ノ記述スル所ニ據ルト、米國おはよう州ノ小麥耕地ニ於ケル放資額ハ、種子及肥料、耕作、收穫及販賣ノ諸費用ヲ合シテ、一畝一カ一平均十弗乃至十五弗デアアルガ、都會附近ノ園藝地ニナルト、平均二十五弗乃至三十弗カラ五十弗乃至百弗ニ達シテ居ル。然ルニ工場ニナルト、同ジ都會附近ニ在ルモノデモ、一畝一カ一ニ付テ平均百人位ノ勞働者ヲ使ヒ、勞働及資本ノ年々ノ放下額ハ五十萬弗ニモ達スル。況ンヤ市中ニ在ル工場デハ、三階四階乃至五階ノ工場ヲ建テ、一畝一カ一ニ付キ平均五百人位ノ勞働者ヲ使ヒ、年々ノ放資額ハ百萬弗以上ニ爲ツテ居ル。所ガ更ニ進ンテ商業及銀行業ナドニナルト、建物ハ非常ニ高クナツテ使用人書記ノ類ハ一畝一カ一ニ付テ數千人ニ上リ、中ニハ一人ニテ驚クベキ高給ヲ得ツツアルモノモ有ルカラ、其放資額ハ實ニ莫大ノ額ニ達スルデ

1. 田島博士、經濟原論、明治四十三年、二三七頁。

2. John R. Commons, The Distribution of wealth, 1893, pp. 141, 142, 143.

有ラウ。此ノ如ク同ジ農業デモ又同ジ商工業デモ、有利ニ使用シ得ベキ勞働及資本ノ分量ハ場合ニ依ツテ各々差異ガアルケレドモ、併シ同ジ工業デモ市外ノモノト市内ノモノトデハ、其經營ノ集約ノ度合ニ差異ガアルト云フコト其レ自身ガ、是等ノ各事業ニ於テモ、勞働及資本ノ使用ガ或點以上ニ達スルト、矢張り收益遞減ノ法則ノ行ハレツツアル證據デアアル。要スルニ收益遞減ノ法則ハ畜ニ農業ノミナラズ、凡テノ産業ニ關シテ行ハレツツアルト云フコトガ、予ノ議論ノ第一點デアアル。

### 三 此法則ハ土地以外ノ勞働及資本ニ關シテモ行ハル

第二ニ、縦ヒ此法則ラバ農業ニノミ限ラズトモ、猶ホ之ヲ以テ土地ニノミ關スルノ法則ト看做ス者ガアル。即チ其說ニ依レバ、收益遞減ノ法則ハ畜ニ農業ノミナラズ工業商業等ニ關シテモ行ハレテ居ルケレドモ、併シ其ノ然ル所以ハ、是等農業以外ノ事業ニアツテモ之ガ經營ニハ必ズ一定面積ノ土地ヲ必要トシ、而シテ其土地ノ上ニハ必ズ收益遞減ノ法則ガ行ハレルカラシテ、ソコデ或限度以上ニ達スルト、是等事業ノ收益ノ増加ハ之ニ向ツテ使用セラルル勞働及資本ノ増加ニ伴ハスコトニ爲ルノデアツテ、要スルニ收益遞減ノ法則ガ一般ニ行ハルル所以ハ、生産要素トシテノ土地ノ存在ニ歸スベキモノデアルト云フノデアアル。

乍併、余ノ考フル所ニ依レバ、收益遞減ノ法則ナルモノハ決シテ土地ニ關シテノミ行ハルルモノデハ無クテ、ソハ資本又ハ勞働ニ關シテモ亦一樣ニ行ハレツツアルモノデアアル。一定ノ生産ヲ營ムニ當リ、其生産要素中ノ或物ヲバ一定シ置キテ、之ト組合ハサルベキ他ノ生産要素ノミヲ増加シ行クナラバ、或程度ニ達スルト必ズ收益遞減ノ法則ガ行ハレテ來ルノデアツテ、其ノ一定サル

ル所ノ生産要素ハ必シモ土地ニ限ラナイ。資本ヲ一定シ置キテ他ノ生産要素ヲノミ増加シ行ク場合デモ、或ハ勞働ヲ一定シ置キテ其他ノ生産要素ヲノミ増加シ行ク場合デモ、收益遞減ノ法則ガ行ハレテ來ルト云フニ相違ハ無イ。

此事ハ、余自身ノ考デハ、殆ド多辯ヲ要セヌコトト思ハレル。何故ト云フニ、既ニ一定面積ノ土地ノ上ニ有利ニ使用サルベキ勞働及資本ノ分量ニ一定ノ限度アル以上、之ト同時ニ、一定分量ノ勞働及資本ニ向ツテ有利ニ組合サルベキ土地ノ面積ニ一定ノ限度アルベキハ自明ノ理デアツテ、譬ヘバ獨逸ノ戰ニ於テ、獨逸ガ勝ツタト云フコトガ眞實デアル以上、露西亞ガ負ケタト云フコトガ同時ニ眞實デナケレバ爲ラヌト同ジ様ニ、二者共ニ只同ジ事ヲ別々ノ觀點カラ言表ハシタノニ過ギヌカラデアアル。余ハ此ノ解シ易キ道理ガ今日マデ兎角曖昧ニ附セラレ來ツタコトヲ寧ロ不思議ニ思フ者デアアル。尤モ近來ニ至ツテハ、余ガ茲ニ述ベシ所ト同ジ意見ヲ有スル學者モ次第二出テ來タノデアツテ、例ヘバカーガー(1)、ふねた(2)、せりぐまん(3)、ちるくすち(4)でかんぼ(5)等ハ即チ其レデアアル。

余ノ知レル範圍ニ於テハ、此收益遞減ノ法則ガ必シモ土地ニノミ關スルノ法則ニ非ザルコトヲ明瞭ニシタル最初ノ學者ハカーガー(1)大學ノカーガー教授デアアル。氏ハ一九〇三年 The Quarterly Journal of Economics (6) ニ於テ The Universal Law of Diminishing Returns. ト題スル一短篇ヲ公ニシテ其事ヲ略説シ、更ニ翌年出版ノ著書 The Distribution of Wealth 中ニ之ヲ詳論シテ居ル。今試ニ氏ノ設ケシ例ヲ引用シテ更ニ以上ノ理ヲ闡明センニ、例ヘバ茲ニ十町歩ノ土地アリテ、其收穫ハ之ニ向ツテ使用スル勞働及資本ヲ増加スルニ從ツテ左ノ如ク變化スルト假定スル。

1. Carver, The Distribution of Wealth, 1904, p. 67 et seq. 2. Fetter, Principles, 1904. (拙著物財ノ價值、七一頁以下。) 3. Seligman, Principles, 1907, p. 373. 4. Wicksteed, The Common Sense of Political Economy, 1910, p. 528. 5. H. I. Davenport, The Economics of Enterprise, 1913, p. 431. 6. Vol XVII, Feb. 1903



勞働及資本ノ單位數	總收穫(石)	投資平均收穫(石)
一	五〇	一〇〇
五	五〇	一〇〇
一〇	一五〇	一五〇
一五	二七〇	一八〇
二〇	三八〇	一九〇
二五	四五〇	一八〇
三〇	五一〇	一七〇
三五	五六〇	一六〇
四〇	六〇〇	一五〇
四五	六三〇	一四〇
五〇	六五〇	一三〇

此表ニ依リテ見ル時ハ、收益遞減ノ法則ハ一定面積(此場合ハ十町步)ノ土地ノ上ニ使用スル所ノ勞働及資本ヲバ二十單位以上ニ増加スル場合ニ實現サレテ來ルノデアル。而シテ其關係ヲバ一般的ノ形式ニテ表セバ次ノ如クスルコトガ出來ル。

$$\begin{array}{l}
 \text{土地} \\
 \text{勞働} \\
 \text{資本} \\
 \text{收益} \\
 \text{生産}
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 X \quad Y \quad T = \alpha \quad P \\
 X \quad Y \quad T = \alpha \quad P \\
 X \quad Y \quad T = \alpha \quad P \\
 X \quad Y \quad T = \alpha \quad P \\
 X \quad Y \quad T = \alpha \quad P
 \end{array}$$

扱テ是等ノ表ニ依ツテ見ル時ハ、收益遞減ノ法則ハ一定面積ノ土地ニ關シテ行ハレテ居ルト云フコトニ爲ツテ居ル。併シ能ク考ヘテ見ルト、此事自身ガ同時ニ、勞働及資本ニ關シテモ矢張り同様ノ法則ガ行ハレツツアルコトヲ言表シテ居ル。何故カト云フニ、十町步ノ土地ニ二十單位ノ勞働及資本ヲ使用スルハ、其割合恰モ十二町步半ノ土地ニ二十五單位ノ勞働及資本ヲ使用スルト同ジデアル。故ニ若シ規模ノ大小ヨリ生ズル生産費ノ割合ノ増減(此事後日ニ論ズベシ)ヲ無視スルナラバ、十町步ノ土地ニ二十單位ノ勞働及資本ヲ使用シタ場合ノ收穫ガ合計二百八十石デ、一町步平均二十八石ノ割合デアアルカラ、十二町步半ノ土地ニ二十五單位ノ勞働及資本ヲ使用スルコトニ依ツテ得ラルル收穫高ハ、 $12\frac{1}{2} \times 38 = 475$ 、四百七十五石トナル筈デアアル。然ルニ前ニ掲ゲタ表

ニ依ルト、十町歩ノ土地ニ、二十五單位ノ勞働及資本ヲ使用シタ場合ノ收穫ハ合計四百五十石デア  
 ル。即チ勞働及資本ノ分量ヲバ二十五單位ニ一定シ置キ、只之ニ向ツテ組合サルベキ土地ノ面積  
 ヲバ増加スル時ハ、例ヘバ土地ノ面積ヲ四分ノ一ダケ増加シテ十町歩ヨリ十二町歩半ニ擴張ス  
 ル時ハ、之ガ爲メニ生ズル所ノ收穫ノ増加ハ、土地面積ノ増加ノ割合ニ比例セズシテ、僅ニ十八  
 分ノ一ヲ増加シ四百五十石ヨリ四百七十五石ト爲ルダケデアアル。今了解ニ便ナル爲メ之ヲ表示ス  
 レバ次ノ如クナル。

勞働及資本ノ分量

土地ノ面積

以上ノ二者ニ依ル總收穫

一町非常平均收穫

一一五

一〇〇〇

四五〇

四五

二二五(變化ナシ)

二二五(四分ノ一増加)

四七五(十八分ノ一増加)

三八

猶ホ之ヲ一般的ノ形式ニテ表ンセバ次ノ如クナル。

土地	勞働	資本	收穫	生産
X	Y	Z	P	>P
X	f	F	fP	<P
X	ay	z	zP	>P
X	f	F	fP	<P
X	Y	z	zP	>P
X	f	F	fP	<P

同シ理由ニ依リ勞働ト資本トヲ分離シテ考フル時ハ、更ニ次ノ諸表ヲ得ル。

扱テ是等ノ諸表ハ、先ニ掲ゲシ所ノ土地ニ關スル收益遞減ノ法則ノ形式即チ

	資本		勞働		土地	
X	X	Y	Y	P	P	生産
X	F	AY	F=Z	P	VP	生産
					<AP	生産

ト全く同じ性質ノモノデアツテ、只其ノ相違スル所ハ、生産要素ノ中其分量ノ一定セルモノヲ  
 バ、或場合ニハ土地ノミニ限り、或場合ニハ勞働及資本ニ限り、又或場合ニハ或ハ之ヲ勞働ニ限  
 リ、或ハ之ヲ資本ニ限リシダケノコトデアル。要スルニ收益遞減ノ法則ナルモノハでぐんぼ一と  
 ノ述ベシ如ク(一)『ソハ明カニ凡テノ生産要素ニ向ツテ一樣ニ適用セララル一ノ法則デアル。ソハ  
 何等ノ度合ニ於テモ特ニ農業の生産ノ法則ト看做スベキモノデハ無ク、又土地ノ存在及使用ノ爲  
 メノミニヨリテ、或ハ土地ノ存在及使用ノ度合ニ於テノミニ、眞實ナリトセラルル法則デモ無イ』。

#### 四 此法則ト效用遞減ノ法則及享樂遞減ノ法則トノ關係

收益遞減ノ法則ガ土地ノミニ關スル法則ニ非ザルコトハ以上述べタルガ如クデアルガ、猶ホ之ニ關  
 聯シテ論述シ置クノ必要アルハ、此法則ト效用遞減ノ法則トノ關係デアアル。是等ノ法則ハ名稱ハ似  
 テ居ルケレドモ、實際ハ全く其性質ヲ異ニセル二個ノ獨立セル法則デアツテ、詳ク云ヘバ收益遞減  
 ノ法則ハ生産要素ノ協合ニ依リテ產出サルベキ生産物ノ物理的分量ノ變化ニ關スル法則デアリ、  
 效用遞減ノ法則ハ一定ノ人ガ一人ノ財ニ對シテ感ズル效用ノ度合ノ變化ニ關スル法則デアアル。前  
 者ハ外界ニ於ケル物理的客觀的ノ事實タル生産力ニ關スル法則デアリ、後者ハ内界ニ於ケル精神  
 的主觀的ノ事實タル效用ニ關スル法則デアアル。サレバたうしつぐガ

1. Davenport, Economics of Enterprise, 1913, p. 431.

Those two tendencies, or laws, seems to me entirely different. In the one case we have to deal with the utility and the values of the several units of quantity: in the other we have to deal with those units of quantity themselves, — with physical units. The law of diminishing returns as to land, so often referred to as the type and proof of the wider theorem, neither says nor implies anything as to utilities or as to value. (1)

ト云ツタノハ其前後ノ議論ハ別ニシテ、茲ニ引用セシ限リニ於テハ余ノ全ク賛同スル所デアアル。併シ以上述べタル所ハ、収益遞減ノ法則ト效用遞減ノ法則トノ差異デアアル。若シ夫レ収益遞減ノ法則ト享樂遞減ノ法則トノ關係ニ至リテハ、以上述べタル所ト大ニ異ル所ガアル。而シテ其ノ然ル所以ヲ明カニスルガ爲メニハ、先ツ享樂遞減ノ法則 (The law of diminishing gratification) ト效用遞減ノ法則ト (The law of diminishing utility) ノ差異ヲ明カニスル必要ガアル。普通ノ教科書ニハ明白ニ此二者ヲ區別シタモノガ殆ド無クテ、寧ロ之ヲ混合シテ一個ノ法則ナルカニ看做シ、名ケテ效用遞減ノ法則ト爲シテ居ル者ガ多イガ、併シ之ハ嘗テモ論ジタ様ニ(2)、全ク性質ノ違ツタ二個ノ法則デアアル。享樂遞減ノ法則ハ一定ノ財ガ吾人ニ向ツテ提供スル所ノ享樂ノ度、合ノ變化ニ關スル法則デアリ、效用遞減ノ法則ハ吾人ガ一定ノ財ヲ欲シト思フ度、合ノ變化ニ關スル法則デアアル。前者ハ人ガ物ヲ消費スル場合ニ起ル法則デアリ、後者ハ人ガ物ヲ獲得セントスル場合ニ起ル法則デアアル。酒ヲ飲ミテ快感ヲ覺エト云フコトト、酒ガ手ニ入レタシト云フコトトハ、互ニ關聯ハアルケレドモ而カモ全ク性質ノ異ル二個ノ事實ナルガ如ク、是等二個ノ法則ノ間ニハ固ヨリ密接ナル關係ハアルケレドモ、併シ二者ハ全ク性質ノ違ツタ法則デアアル。サレバ縱ヒ效用遞減ノ法則ト収益遞減ノ法則トハ全ク其性質ヲ異ニスルモ、之ヲ以テ直チニ享樂遞減ノ法則ト収益遞減ノ法則トノ間ニ於ケル性質上ノ關係ヲ速斷スル譯ニハ行カヌノデアアル。

1. Taussing, "Capital, Interest, and Diminishing Returns." Journal of Economics, vol XXII, p. 361.

2. 拙著經濟原論五五一七二頁、七三一八八頁參照。

くらくハ效用遞減ノ法則ト收益遞減ノ法則トヲ總稱シテ經濟的結果變動ノ法則 (The law of variation of economic results) ト云フ、猶ホ此點ニ關シテ次ノ如ク述ベテ居ル。

The final utility theory of value rests on the same principle as does the theory of diminishing returns from agriculture; and this principle has a far wider range of new applications. One law, therefore, governs economic life, and theories old and new contain partial expression of it..... Opposite in kind, indeed, are consumption and production. Nature spends itself upon man in the one process, and man spends himself upon nature in the other. Yet the same law governs the results realized in each of these cases. It may be called a law of variation of economic results; and, if it were stated in its entirety, it would give unexpected unity and completeness to the science of economics. It would explain at the same time values, wages, and interest. (1)

(價值ニ關スル限界效用説ハ農業ニ關スル收益遞減説ト同シ、原則ニ本イテ居ル。……シマリ一個ノ法則ガ經濟生活ノ全體ヲ支配シテ居ルノデアツテ、新舊ノ學説ハ凡テ此法則ノ部分的説明ヲ含ム。……消費ト生産トハ固ヨリ性質ノ相反シタモノデアツテ、前者ニ在ツテハ自然ガ人ノ上ニ其自身ヲ費シ、後者ニ在ツテハ人が自然ノ上ニ彼自身ヲ費スノデアアル。而カモ同ジ法則ガ是等ノ各場合ニ實現サル所ノ結果ヲ支配シテ居ル。ソハ名ケテ經濟的結果變動ノ法則トモ云フ。メク若シ其總體ヲ記述スルナラバ經濟學ノ上ニ豫期セザル統一ト完全トナヘルデ有ラツ。ソハ同時ニ價值、勞賃及利子ノ問題ヲ説明スルニ足ルモノデアアル。)

ふねたトモ亦同ジヤウニ效用遞減ノ法則ト收益遞減ノ法則トヲ以テ比例ノ法則 (The law of proportionality) ト云ヘル經濟上ノ大法則ノ一方面ト爲シ、二者共ニ凡テ手段ト目的トノ間ニハ一個最上ノ調和點アリテフ根本的公理ノ一發現デアルト云ツテ居ル(2)。

くららくモふえたトモ享樂遞減ノ法則ト效用遞減ノ法則トヲ混同シテ一摺ミニ效用遞減ノ法則ト云ツテ居ル。其故效用遞減ノ法則ヲ以テ收益遞減ノ法則ト共ニ各々同ジ大法則ノ一發現ニ屬スル

1. Clark, The Distribution of Wealth, pp. 208, 209.  
 拙著、物財ノ價值、一七頁等參照。

ト認メテ居ルノデアルガ、其ハ誤解デアツテ、收益遞減ノ法則ニ對シ此ノ如キ關係ニ立ツテ居ルノハ、效用遞減ノ法則デハ無クテ實ハ享樂遞減ノ法則デアアル。今試ニ之ヲ説カンニ、例ヘバ吾々が酒ヲ飲ムニ當リ、一杯又一杯、杯ヲ重ヌルニ從フテ其美ミヲ減ズルト云フノハ所謂享樂ノ遞減デアアルガ、之ハ恰モ一定面積ノ土地ノ上ニ肥料ヲ施スニ當リ、或程度ヲ超スト其肥料ノ増加ノ爲ニ生ズル收穫ノ増加ガ割合ニ少クナツテ來ルト云フ所謂收益ノ遞減ト、根本ニ於テハ全く同一性質ノモノデアアル。後ノ場合ハ一定面積ノ土地ノ上ニ肥料ヲ施スノデアルガ、其ガ前ノ場合ニハ一定ノ人ノ體ノ上ニ酒ヲ注ギ込ムノデアツテ、物理的ニ云ヘバ其關係ハ同ジデアアル。ツマリ凡テ物ニハ一定ノ釣合ヒト云フモノガアツテ、物ノ組合セニハ其釣合ヒヲ保ツコトガ利益デアアルト云フ自然的大法則ノ別々ノ發現ニ過ギヌノデアアル。例ヘバ之ヲ工學ノ範圍ニ就テ述ベンカ、橋梁ヲ架スルニ當リ、他ノ部分ハ其ノマ、ニ爲シ置キテ獨リ床板ノミヲ厚クスルナラバ、或程度以上ニ達スルト床板ノ重サニ對シテ橋ノ柱ガ耐エ得ナクツテ、橋ハ鞏固ニ爲ルヨリモ却テ薄弱トナルト云フガ如キ、或ハ之ヲ化學ノ範圍ニ就テ述ベンカ、甲ト乙ト化合セシメテ丙ヲ得ントスル時、若シ一定ノ程度ヲ超エテ乙ノミヲ増加シタナラバ、其部分ハ化合サレズシテ徒ニ殘留スルカ、又ハ化合ノ結果丙ヲ生ゼズシテ丁ヲ生ズルニ至ルト云フガ如キ、或ハ又之ヲ生理學ノ範圍ニ就テ述ベンカ、肉類ハ如何ニ滋養分ニ富ミタリトテ、或程度マデハ野菜トカ穀類トカラ交ゼテ攝取スルノ必要ガアルトカ、又ハ睡眠ハ健康上如何ニ必要ナリトモ、或程度以上ニ達スレバ、運動不足ノ爲メ却テ健康ヲ害スルコトニ爲ルトカ云フノハ、凡テ自然界ニ行ハルル或根本の原則ノ各方面ニ於ケル其レ其レノ發現ニ過ギナイ。余ハ此意味ニ於テ享樂遞減ノ法則ト收益遞減ノ法則トヲ以テ同一原則ノ派生ト看做シ、且ふえたゝニ做ヒ其根本原則ヲ名ケテ比例ノ法則ト云ハント欲スルモ

ノデアル。乍併、之ヲ經濟學ノ範圍内ニ於テ論ゼンカ、二者ノ間ニハ固ヨリ重大ナル差異ガアル。即チ享樂遞減ノ法則ハ人ガ物ヲ消費スル場合ノ法則デアアル。其故ソノ問題トスル所ハ人ト財トノ消費上ニ於ケル關係デアアル。一定スル所ノモノハ人デツテ、次第ニ其分量ヲ増加スル所ノモノハ享樂財デアアル。之ニ反シ收益遞減ノ法則ハ物ヲ生産スル場合ノ法則デアアル。而シテ其問題トスル所ハ或生産要素ト他ノ生産要素トニ於ケル關係デアアル。一定スル所ノモノハ或種ノ生産要素デアツテ、次第ニ其分量ヲ増加スル所ノモノモ等ク他種ノ生産要素デアアル。若シ或學者ノ云フ如ク吾々ガ物ノ消費ニ因ツテ感ズル享樂ヲ以テ心の所得 (psychic income) ト名クルナラバ、享樂遞減ノ法則デハ此ノ主觀的ニ内界ニ生ズル所ノ心の所得ノ遞減ヲ取扱フニ反シ、收益遞減ノ法則デハ客觀的ニ外界ニ生ズル所ノ物の所得ノ遞減ヲ取扱ツテ居ルノデアアル。前者ノ取扱フ所ノモノハ享樂ト云フ無形ノモノデ、其ハ財ノ消費ニ依ツテ生ズルノデアアルガ、後者ノ取扱フ所ノモノハ生産物ト云フ有形ノモノデ、其ハ生産要素ノ使用ニ依ツテ生ズルモノデアアル。此ノ如ク狭ク之ヲ經濟學ノ範圍内ニ於テノミ見ル時ハ、享樂遞減ノ法則ト收益遞減ノ法則トハ固ヨリ其性質ヲ同ウセザルモノデアアル。而カモ一ハ消費財ニ關スル效用遞減ノ法則ノ前提ト爲ルコトニ依ツテ所謂交易論ノ基礎ヲ形造リ、一ハ生産財ノ用ニ關スル效用遞減ノ法則ノ前提ト爲ルコトニ依ツテ所謂分配論ノ基礎ヲ形造リ、此ノ如クニシテ、二者相俟テ以テ靜的經濟理論ノ全般ヲ支配スル效用遞減ノ法則テフ一大法則ヲ支持スルノ面翼ト爲リツ、アルノ關係ヲ大觀スルハ、我經濟原論ノ上ニ一貫ノ條理系統ヲ建設スルニ於テ極テ大切ノ事デアアル。是レ余ガ茲ニ收益遞減ノ法則ヲ説クニ當リ特ニ其ノ享樂遞減ノ法則ニ對スル關係ニ論及シタ所以デアアル。